

山弓連 平成25年1月

年頭所感

理事長 森岡博文

新年あけましておめでとうございます。皆様にはよいお年をお迎えになられたことと思います。

元旦には、近くの菅田天神社に初参りをしてきました。「この菅田天神社の境内には一戸建ての独立した建物があり、武田家伝来の楯無しの鎧(国宝)が保管してあります。平安時代から伝わる鎧で武田家の家宝でもありました。戦場でどんな強弓で射られても、この鎧を着ていれば楯はいらないという頑丈な鎧です。千年以上経っているためかなり傷んではいますが大切に保存されています」。好天気にも恵まれ、冷え冷えとするも社殿はさすががしく、よい年でありますようにとお参りをしてきました。

理事長を勤めさせていただいて2年が経ちました。初めは勤められるのか不安がありました。前理事長の有賀先生をはじめ、代々の理事長の先生方は非常に立派な方々ばかりで力不足を感じております。この2年間は天野会長はじめ、多くの皆様に助けられて無事に終えることができました。紙面をお借りしてお礼を申し上げます。

理事長の文字には、「理」；みちすじ、ことわり、切り盛り。「事」；ことがら、仕事、勤め。「長」；ながし、かしら、おさ。等の意味があります。「事柄を切り盛りするかしら」というような意味かと思えます。連盟での事柄とは「山梨県弓道連盟規約」のことで、会長の指示の連盟の規約に関わる事務を忠実に実行することであると思っています。

事務専用にするパソコン一台、ノート型パソコン一台、コピー機一台、机一脚、金庫一台等を事務専用の2部屋において作業をしています。週3日は自分の仕事にあて、あと4日は弓に空けてあります。近くにお越しの折はお立ち寄りください(お茶をお出しします)。

今年は関東連合審査と関東地域弓道選抜大会が行われます。緊張感をもって、事務に専念していきたいと思えます。また、より多くの皆様が県連の行事にご参加していただけますよう連絡を密にしていきたいと思えます。昨年に勝るご指導、ご鞭撻をよろしくお願ひします。

年の初めにあたり、連盟の更なる向上と皆様のご健勝とご発展を祈念申し上げます。

山梨県弓道連盟

平成24年度 納射会

平成24年12月9日(日) 小瀬武道館弓道場

12月に入って一番寒い年末の日曜日に山弓連の納射会が開催されました。

その寒さのなかで、参加された弓道人はなんと総勢27名(称号18名、段位9名)という少数で、なお一層の寒さを感じた納射会でした。

天野会長の矢渡しに始まり、担当地域、峡中、郡内、の演武が行われました。

そのなかで、今回の演武の一つは日置流の、一般的に言われる射礼で、日置流独自の「体配」と称し、見事な演武がなされ、射場前列で見学の弓士の注目となり、特につくばい、割りひざなど、演武される一つ一つの体配が非常に興味深いものがありました。以下、当日の演武内容の説明文を紹介します。

(日置流印西派の前体配朗読、鮫島誠一)

日置流印西派の前体配について紹介します。

当流では一般に言う射礼を体配と呼び習わしています。巻藁前、的前の2種類があり、それぞれに立射1手、割膝もしくはつくばい1手の都合4ツ矢をもって正式な体配としております。

本日は時間の関係もありますので略式体配として、甲矢を立射、乙矢を割膝およびつくばいで行います。なお多人数で行う場合も1つの原則としています。

歩射から発達した日置流は、諸動作に敵と向かい合っている時の実戦の形を随所に残しています。実戦における基本姿勢の射法である割膝を取り入れていることは大きな特徴です。

的前で体配は的を敵と見立てて行います。的は人間の身体の大きさを元にしており、的の直径は身体の巾を想定した1尺2寸、中央の白の大きさは心臓の大きさ4寸とした日置霞の絵柄となっています。

基本姿勢において、執弓の姿勢で上座を向いた時は、弓のうらはずを上座に向けず斜めに寄せています。これは昔、弓が戦場の武器であった時代には、うらはずに槍の穂先より小さい鉾を付けて武器としていた事に由来し、うらはずを上座に向けることは主君に対する反逆を意味することになるからです。

跪座は左足を引いて座った姿勢で、即座に割膝行射の姿勢に移れるものです。

行射における実戦の射法を表す動作の特徴として、的突きは的に弓を突き出す動作で、敵との間合いを見定めると共に、敵を威圧するものです。

的割りは弓手を的に向け弦をかえす動作で、的の高低

を見定めるものです。

胴造りは、妻手を常に前差しの上に置き、弓構え以前の不測の事態に備えた形をとっています。

取りかけは闇夜の中でも早く正確に取りかけができる様に下弦からこき上げます。

動作の中に種々の特徴を持った日置流印西派体配をご覧ください。

納射会競射成績（6射）

優勝・中込 実（錬士五段）6中

2位・芦澤茂幸（教士六段）5中遠近競射

3位・川島けい（錬士五段）5中遠近競射

（中込錬士五段はYBSに続き連続優勝）

第27回 県下 女子弓道大会 「前号未掲載」

平成24年10月7日（日）小瀬武道館弓道場

158名参加

高校の部団体（チーム24射）

優勝・甲陵高校Aチーム（17中）熊谷くるみ、

石井菜月、百瀬七海

2位・韮崎高校Bチーム（14中）田中美穂、

清水玲奈、永島あかね

3位・富士北陵高校Aチーム（13中）中込美江、

佐藤優、羽田佳香

高校の部個人（丸の中の数字は的中数）

優勝・市川高校・望月優美子④ 2位甲府西高校 瀧澤

恵里④ 3位・甲陵高校 石井菜月③ 4位 韮崎高校

田中美穂③ 5位巨摩高校 熊王桃佳③

一般の部個人（各自4射）

1位 甲州支部 高埜よしみ③ 2位 中央支部 平出

恭代③ 3位 南ア 小澤朋子② 4位 山梨支部

矢崎貴恵② 5位 北枝支部 小林睦②

第31回全国高等学校弓道選抜大会

準優勝！吉田高校

技能優秀賞も同時受賞！

選手・山崎大貴 2年 梶原慎太郎 2年

永井聡太 2年

会場 神奈川県相模原市総合体育館特設弓道場

期日平成24年12月24日～26日

個人男子、女子いずれも予選4射2中で敗退

団体予選

女子団体 山梨高校 12射2中 予選敗退

男子団体 吉田高校 12射9中 予選通過

男子団体 決勝トーナメント

一回戦 吉田 7-7 厚木(神奈川)

同中競射 2-3

山崎 3 梶原 2 永井 2

二回戦 吉田 10-7 札幌第一(北海道)

山崎 2 梶原 4 永井 4

準決勝 吉田 9-5 甲西(滋賀)

山崎 3 梶原 3 永井 3

決勝

吉田 8-10 加治木工業(鹿児島)

山崎 4 梶原 1 永井 3

選手

山崎大貴 2年 梶原慎太郎 2年

永井聡太 2年

監督・志村奨

準優勝！ 技能優秀賞も同時受賞！

監督のコメント

この度の全国高等学校弓道選抜大会では、男子団体第2位と技能優秀賞をいただくことができました。選手たちの団結と頑張りはもちろんですが、「相手を意識せず、自分たちの射に集中すること」が全国大会という舞台でできたことが、大きな自信にもつながりました。監督の私を含め日頃からご指導や応援をいただいている吉田高校の小松先生、高体連弓道専門部の五味先生、風間先生をはじめとする先生方、そして県連の標先生、小林先生と、お名前を上げさせていただければきりのないくらい、多くの先生方のお力添えがあつてこそその結果だったと思います。そして山梨県の弓道がさらに元気になるひとつのきっかけになってくれればと願っています。

吉田高校 弓道部 志村奨

山梨県弓道連盟 平成25年 初射会

平成25年1月13日（日）小瀬武道館弓道場
天候に恵まれて爽やかな新年初射会が開催されました。例にならって担当地域（峡北、峡西）の演武が厳かになされ、引き続き24年に晴れて昇段昇格の六段・伊藤昇、及び錬士・標哲也、高埜よしみ、進藤美砂の各弓士の晴れ晴れとした演武が行われました。

参加者数・称号20名 段位18名 計40名

初射会競射成績（6射）

優勝・山下弘行（五段） 5中

2位・綿奈部博史（錬士六段） 5中

3位・市川 明（五段） 5中

（5中4名射詰競射）

編集後記・今年度最後の会報「山弓連」です、1年間お読み頂きありがとうございます。拙い編集内容でしたが、ご容赦いただきたいと思います。今後ともよろしく願いたします（新藤）